

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 希望の家
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	鹿児島県出水市六月田町361番地
記入者名 （管理者）	藤川 民子
記入日	平成 21 年 5 月 1 日

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを 支えていくサービスとして、事業所独自の理念 をつくりあげている	三徳会の理念を基本にして 1. 触れ合い 2. 技術 3. 共有について特性 を生かした事業所の理念を作った。	○	介護を提供していく中で、専門性を意識 し、日常的に自立支援に基づいた介護を 目指したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	理念は、全職員からアンケートをとり、言葉を集 約したものであるが、個別性については、過介護 になってしまう場合がある。	○	全職員が、全利用者様の持てる力を引き 出し、人として「尊厳」を維持できる介 護者に成長したい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に 理解してもらえよう取り組んでいる	御家族様には、入所時、家族会で説明を行った。 地域においては、運営推進会議で説明、提示した が本格的な活動には至っていない。	○	地域の人々に理解し、受け入れて頂ける よう馴染みの関係をつくりたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をか け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような 日常的なつきあいができるように努めている	民家は、少し距離があり、日常的な付き合いは出 来ていない。「病院にきたから…」と立ち寄った りホームの見学に来られたりすることはある。隣 接する東医院、あじさい薬局に、利用者様が作ら れた餅や、あく巻き等を届けたりした。	○	地域の運動会、行事等、自治会活動に出 来るだけ参加させて頂きたい。またホー ムにも気軽に立ち寄って頂けるように馴 染みの関係に近づきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加 し、地元の人々と交流することに努めている	施設は、自治会に加入させて頂き、行事等の案内 も頂いている。 運動会を見学させて頂いたり、地域への催物に出 かけているが、頻度は少ない。	○	地域とのつきあいは、今後、頻度を増や していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等を通して、地域の状況を把握して地域の高齢者の方々との交流を常に考えている。	○	自治会の懇親会、ゲートボールに月に1回～2回は出席、見学したい。認知症介護に困っておられる時は相談にのって行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員同士が意見を出し合い、日々、ケアの改善点を振り返っている。お互いの力を借りたり学び合っている。外部評価も自分たちへの気づきを得る機会と捉えている。	○	項目の内容すべてを完璧にすることは難しいが、施設の体質向上に向けてよりよい介護者を目指したい。ホーム内の整理整頓、利用者様との触れ合いなど改善すべきことは多い。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回の運営推進会議を実施して、ホームの状況や取組を報告して、多くの意見を引き出しサービス改善に向けて取り組んでいる。安全管理体制の見直し・地域活動への参加など。	○	運営推進会議を通じて、今後、より地域とネットワーク作りに取り組んでいきたい。地域密着型サービスの施設として地域での活動を充実させたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月2回、市の開催する会議に出席し、市からの情報や研修を聞き、サービス改善に向けて取り組んでいる。市から利用者様のことで相談に来られたり、出かけて相談にのっていただいた。	○	制度など不明なことも多いので相談したり、改善に向けて努力していく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	前年、1件の事例があり協力できた。職員は制度については認識できていない。	○	制度について学習し、事例があれば、その背景を理解・共有し、高齢者がより良く過ごしているために支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段のケアの場面や、カンファレンス等で情報を共有しながら事前に注意を図り、防止に努めている。	○	今後も、事例に相当することがあれば、勉強会等を通じて更なる理解を、深めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間をとり、一方的にならず相手の立場を考え、疑問、不安になりそうな事を出来るだけ、こちらから引き出し、ご納得、安心頂けるような説明をすることに努めている。	○ 医療連携体制について詳しく説明し、重度化や看取りについても検討していきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来るだけ利用者様と関わる時間を多くとりながら、傾聴し、必要により、記録に残している。	○ 利用者様の意見はケース記録に記入してスタッフ間で、情報を共有したい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時や電話、郵便で日常生活状況、金銭の報告を行っている。又、職員の異動等は、運営推進会議にて報告、発表している。最初の面会時に、介護担当者の紹介をしている。個人でお金を扱っている方には、面会時に説明している。	○ 今後も左記を継続し、定期的なホーム便りを作って、暮らしぶりを伝えていく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に、意見箱を設置したり、定期的なお便りにて、機会を設けている。面会時、ご本人の表情など気になることはないか意見や感想をお聞きするように努めている。	○ 利用者を支えるためのご家族の意見を大切に受け止めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝のカンファレンス、日々の活動の経緯で、定期的な会議の時などいつでも職員の提案、意見を聞くようにしている。	○ 必要性や意義を見極め、計画をたてて意見が反映できるようにする。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な利用者様の変化、ご家族様の対応が出来るように、常に配慮し、職員各自の予定も相談しながら勤務調整している。職員は連絡や話し合いをして協力的な姿勢で応じている。	○ 職務に対する熱意が継続されるように職員の能力・姿勢を大切にしていける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるべく利用者様に影響ないように配慮し、出来るだけ離職者を最小限に抑える為に、採用時の人選採否に慎重に当り、又、職員間の人間関係にも配慮している。	○	職員個々の意見に耳を傾けたり、健康管理に配慮していく。能力が発揮できるような職場の雰囲気を作り高めたい。職員間の良い雰囲気も継続したい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開所時は他業者のホームでの新人研修を実施した。内部研修でも、教育担当を決めて、学習した。研修案内時は、交替で参加できるように働きかけ、学習の機会を得た。	○	人材があれば、採用して管理者の育成を行う。職員の研修への機会を作り、参加を促す。お互い学び合う姿勢を培う。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を中心に電話、郵便での連絡、相談、外部研修依頼を実施している。研修の受講申し込みも気持ち良く受けている。	○	今後は、同業者間の意見交換が出来る定期的な会議を実施したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフの状況をみて、個別面接を行い、体調、悩みや相談事などを聞き取る機会を設けている。年に数回は東医院との交流で食事会を設けた。一緒にチームを作り、地区の運動会に参加した。	○	働き易い雰囲気づくり。職員の明るい姿が利用者様への穏やかな生活を支えることを認識する。今後も気晴らしの機会を設けて仕事を客観的に見つめる機会をつくる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員に、目標を持たせて、又、上の資格への取得、挑戦を働きかけ、各自が向上心を持って働けるように努めている。	○	利用者様を中心にしたサービスの充実や行事企画であれば職員の意見、能力を尊重していきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	生活歴を聞いたり、間接的に知ったりする中で本人が不安に思っていることをニーズとして捉える。家族関係がうまくいっていない方には生活歴が見えない部分がある。	○	生活歴や家族歴を許される限り傾聴して、生活の中に活かせる機会を作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族支援という観点から、できるだけご家族の心理的・経済的負担等をお聞きした。生活費が少なくて済むように、共同購入したり利用者様によっては散髪も介護職で援助することがある。	○	・体調悪化の兆候時、ご家族と相談して、隣接する東医院や専門医との連携で早期の対処を心がける。 ・生活費の負担を減らせるように援助内容を工夫する。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体的介護も含め、利用者様の精神的介護に努めている。一人暮らしから来る寂しさや不安から起こる行動障害が悪化しないように言葉のかけ方に気をつけている。入所時は居宅での担当ケアマネージャーからケアプランや対話で情報を得て参考にした。	○	個々の利用者を理解し、まずどのような支援が必要かを探り、不安を抱かせない介護に努めたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の際は、自分の布団・使い慣れたお茶碗・箸・物品・親しい方々の写真などを持ってきていただいた。早く馴染みの関係が築けるように呼び名で親近感を寄せたり、苦難の時代に歌った明るい歌を何度も歌って、心を寄せ合った。	○	利用者様の持てる力を活かし、又他の利用者様の力も借りながら親しみやすい環境にして、心身共に穏やかな生活支援に努めたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	戦争体験の話を聞いたり、当時に流行った歌を教えて頂いたり。食事の準備や盛り付けなど一緒に行い、旬の野菜の食べ方など教えて頂いた。言葉の彩（特に方言など）で大笑いしてしまうことも良くある。不安な表情の時は寄り添い、話しかける努力をしている。	○	共に生活しながら、できることを見出し必要とされている立場でもあることを実感していただきたい。
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ほとんどのご家族に、面会の時に日常生活について報告したり、カルテを読んで頂いてお互いの立場を理解・相談している。少数の方ではあるが、家族関係上、一方的な面がある。	○	連絡・報告・相談を継続して力を得ていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家庭では、距離感があったようなご家族も入所により、お互いを思いやる機会にもなっているように感じられる。介護者は仲介役として、話しやすくなる様な雰囲気作りに努めている。	○	両者の良き理解者となれるように努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活してこられた地域に出かけたり、面会・外出・外泊なども協力していただいている。利用者様によっては親しくしていた友人・隣人等も気軽に面会に来ていただいている。	○	馴染みの方との関係が途絶えないようにメッセージを送ったり、招待する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	生活の場面を通して、協力しあったり、お互いが話相手になったり、また不安そうな表情の利用者様に対し、優しい言葉をかける光景も見られるようになった。お茶や食事の時は、座席の工夫もしている。	○	利用者様同士が、お互いの力を認めあえるように、関係作りの援助法を培う。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	事例なし。	○	事例があれば努力していきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いをなるべく尊重している。買い物に出かけたり、帰宅願望のある時は自宅周辺にドライブして気持ちに寄り添うようにしている。	○	『利用者本位の介護』に努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	概ね把握できている方と、生活歴がご家族にも不明な点もあり、全員が周知できているとは言い難い。	○	活躍してこられた時代の話の聞き役となり元気づけてやりたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一緒に過ごしたり、話したり、見守りの中で個々の心情を推察し、サービスに繋げている。	○	得意なこと・できることを見出し、行事や日々の活動・役割に取り入れたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	できるだけご本人やご家族の要望に応えられるようなサービス内容に努めているが万全とは言い難い。	○ 表出できないニーズの把握ができるように日々の触れ合いをより大切にしたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	主に3か月に1回のモニタリングを行い、変化が生じた場合は家族・主治医・ケアスタッフと相談してサービス計画に活かしている。	○ ご利用者主体の介護ができるように常に変わっていくニーズの把握に努めたい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録や毎日の引き継ぎで情報を共有して実践・計画の見直しに役立てている。特に体調の変化・心身の変化には気をつけ継続した介護に取り組んでいる。	○ 左記に同じ。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	腰椎圧迫骨折の事例があった時や、不穏な利用者様等、デイサービスとの連携・協力を得て介護を充実させることができた。急性期の利用者様に対し、東医院からの往診・看護をホーム内で受けて重度化や家族の負担や不安を軽減できた。	○ 今後も連携して、サービスの充実を図りたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議での相談や助言。消防署からの救命処置法・避難訓練を受けた。早朝の不審者があり、警察にも巡回など協力や助言を頂いた。民生委員や館長を通じボランティアの慰問をして頂いたり、集落の行事に声をかけて頂いている。	○ 恵まれた環境や社会資源を活かしより、安全・安心で楽しい生活支援を行う・
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設のケアマネージャと相談し、相互の施設間交流を図った。マッサージ師・美容師などの利用にも協力している。	○ 今後も連携して、サービスの充実を図りたい。ボランティアによる対話や手話の体験なども予定している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在事例なし。	○	事例があれば協力していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回主治医（東先生）の往診。東医院へ毎日、朝夕報告。歯科医への連絡や受診に付き添い。遠方への受診時にも連絡・送迎に協力した。	○	今後も本人や家族の希望に添うように、連携して、サービスの充実を図りたい。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご家族には1件、助言したり、専門医への問い合わせはしたが、著しい状態悪化に至らず受診までに至らなかった。	○	今後も連携して、サービスの充実を図りたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	東医院への朝夕申し送り時・夜間の相談。歯科医、眼科、認知症専門医などについての相談。	○	今後も必要があれば連携して、サービスの充実を図りたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、2週間～1か月の待機期間を設けている。	○	今後も必要があれば連携して、サービスの充実を図りたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急性期には掛かり付け医に協力していただき、往診治療を受け、改善することができた。重度化については現在事例なし。	○	重度化した場合、事例によっては家族の要望があれば支援していきたい。医療的処置があれば、援助できない場合があり得る。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	資料のモデルは作成した。		検討中。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	骨折で他の医療機関に入院された時、面会等重な たが、情報交換については十分ではなかった。	○	情報交換を十分に行い、ダメージを最小 限に食い止めたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	利用者様への声掛けなど、まだ全職員が適切な言 葉が使えているとは言えない場面がある。言葉の かけ方・呼び名等、自尊心を損なわないように努 め、ミスがあった時は職員間で注意し合ってい る。利用者様の不要物を破棄する時はご本人かご 家族の承諾を得ている。	○	専門職という立場を十分自覚して、尊厳 を大切にしたい介護に努めたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり 、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	自己決定に躊躇される利用者様には、複数の回答 を示し、選択していただく。拒否時は時間を置 き、再度働きかけて同意・納得をいただしてい る。	○	左記のとおり。管理者・職員は経験を重 ねて、利用者様の『わかる力』を引き出 せる技術を学習する。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	利用者様の趣味などは、可能な限り好きな時間 にして頂いている。（一緒に買い物や散歩、昼寝、 大正琴）その他朝食の時間は気持ち良く目覚めた 時間に行っている。毎日随時、できているとは必 ずしも言えない。	○	職務に当たっては、『利用者様本位』を 常に考えていきたい。利用者様の希望はな るべくかなえてやりたいが、ご家族の同 意が得られないこともあるので、協力を 求めたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行 けるように努めている	美容院にはご家族と出かけたり、職員が送迎し たりホームに来て頂いたり。経済的な事情で職員 が手入れする時もある。行事で出かけたり、誕生 日には薄化粧したりして笑顔を引き出したりして いる。洋服の選択については利用者様と一緒に選 んでいる。	○	その人らしい身だしなみをいつも支援で きるように努めたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	できる利用者様と一緒にいる。野菜切り・ 盛り付け・片付けなど。身体的な問題で、介護 者が主体にしていることが多い。要望は買い物 前に意見を聞いている。一緒にでかけて、好み の物を選んでいただくこともあるが、頻度は少 ない。	○	利用者様のできる力を広げ、活動に繋げ ていきたい。今後も食事の楽しみを尊重 したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品の持ち込みは少ない。みかんやあめなどは持ち込みの方もいるが、限られている。要望があれば支援している。食事会ではお酒を出したこともあったが頻度は少ない。誕生会にはご本人に意見をお聞きしている。	○	ご本人の要望があれば支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	意思の伝達ができない方には、排泄間隔の時間を見たり、立ち上がって落ち着かない時など行動や表情で見極め、誘導している。	○	左記のとおり。今後も利用者様が気持ちよく排泄できる工夫をする。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	計画としては、主に午前中に行っている。失禁時や本人の要望、拒否があった時はタイミングで行っている。	○	職員の声掛けに応じて、入っていただくことが多いが、要望があったり、不眠がある時は時間の工夫もしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣は尊重して、自由にしていただいている。傾眠が強い時やソファで休まれている時には、居室に案内して休んでいただく。季節により、天気の良い日は布団を干したり、外気浴を楽しみ、快適な気分を引き出せるように努めている。	○	不穏な利用者様が、安眠できるように介護力を向上させたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	①洗濯干し・畳む・整理 ②食事の準備・調理・食事・後片付け③外出での買い物、ウインドウショッピング。④職員との散歩・外出⑤花を飾る・観賞。⑥レクリエーション⑦施設行事や旬を楽しむ。 ⑧ご家族や親族との外出・外泊への協力	○	左記のとおり。今後も少しでも利用者様の力を引き出し、表情が生き生きとなれるような工夫をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者様の生活費を預かり、要望や必要に応じている。自己で管理したり、預かったお金を渡して、支払いや買い物をさせていただいている方もある。	○	トラブルがないように注意して、楽しみの一つとしても支援したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご家族との同伴はいつでも受け入れている。美容院・散歩・買い物など希望にそって行えるようにしているが、休日などその日にできない時もある。	○	家族と一緒にの気持ちになって、その日の気持ちに添って支援できるような体制にしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族同伴の時は、いつでも受け入れており、利用者様によっては頻度も高い。施設では行事を企画し易い環境（人・場所など）にあるので良く出かけている。	○	今後も喜んでいただける企画を取り入れていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いなど親しい関係にあった友人や家族に出していただいた。個人によっては、贈り物が届いた時は手紙や電話で連絡を取っていたている。	○	行事で出かけたりした後、葉書等書いていただき、嬉しい表情を届けたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	安全管理の観点から、時間はAM7時～PM7までにさせて頂いている。家族によっては頻度も高い。どのご家族も面会の時間内にはいつでも訪問していただいている。時により、自室で対話されている。	○	現状ではどのご家族もそれなりに面会していただけている。今後も入りやすい環境でありたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例なし。起き上がりや転落防止のために、ベッド柵をつけてある。活動を止めたり、抑制したりしてはいけないことを認識しており、自由な行動を見守っている。目的が分からない利用者様には誘導している。ベッド上に立たれる時は安全を優先するが、拘束はしていない。	○	抑制の事例がないように今後も努力したい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵の設置はされていない。玄関や勝手口には日中も鍵をかけてある。外へ出たい方には、付き添って出るようにしている。以前、職員が気がつかないうちに道路まで一人で出られた事例があった。	○	他施設に良い工夫があれば、参考にしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全 に配慮している	日中は、見守りを交替で継続。夜間は、原則として全員安眠中は、2時間置きの巡回。現実的には殆ど全員がそろって休まれる日は少なく、動きや物音がするたびに駆けつけて安全を確認している。	○	安全確認や個人のプライバシーには今後も配慮したい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	行動障害（異食・物を壊すなど）のある方には、自由を束縛することなく、動きに注意して、物品を引いたり、片付けている。下肢筋力の弱い方には移動の妨げになったり、転倒の危険が予想される障害物は取り除いている。	○	今後も事故につながらないように注意していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入所当時、一人で道路まで出て行かれた事例があった。今後行方不明などの恐れがある方には写真など公開できるようにご家族の了解を得ている。問題の起きる恐れの方には、できる限り問題を共有し日々、対策を相談している。（ヒヤリハットなど）	○	事前に防げるように学習の機会も設けたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署などの協力を得て、学習の機会を設けたが、すべての職員に定期的に行っているとは言えない。全員参加のホーム会議は、月1回設けている。初期対応に関しては認識している。	○	急変時の対応については東医院との協力体制で充実させたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署への連絡体制はととのえてある。運営推進委員会で地域への協力をお願いしている。職員の連絡網を作り、認識している。	○	事例の無いように日々、安全確認を行う。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクが高い時は、ご家族の面会時に説明したり、電話での連絡をしている。抑制は行わず、見守りし易い方法や危険を避ける工夫をしている。	○	必要によっては、ご家族の理解と協力を得たい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝入浴前のB Sチェックを行っている。不穏時は時間をおいて観察を続け、東医院へ朝夕報告・相談をしている。必要に応じ、往診・訪問看護を受けている。	○ 今後も早期対応に努めたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつもと違った変化がないか、確認し合って問題があれば、見守りを継続している。薬の知識については個々の処方箋と説明書を見やすい場所に保管・設置している。病名と薬の理解がしやすいように、カルテに保管している。	○ 知識が高められるように個人の努力を推進して行きたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	歩行運動や体操の奨励・水分量のチェック・水分補給食べ物の工夫など。病気によっては薬の処方がされている方があるが依存せず、身体を動かすように声掛けを行っている。	○ 自発的に体操や運動が習慣付くようにする。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・実施。自分で行えない方には、職員が介助して行っている。夕食後には洗浄後、消毒・保管し、朝装着して頂いている。	○ 口腔の不潔からくる危険についての認識を怠らない。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	過食にならないように量を調整し、少ない方には自立度に応じた食事介助を行う。食事毎に摂取量を確認し、量が少ない方には間食などでも補給している。水分については、外出後や入浴後にも補給している。自室に果物など持っている方もある。	○ 体力を維持し、低栄養や肥満で病気につながるようには支援したい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	間食や食事前、外出から帰られた時など手洗い・嗽を勧めている。手摺やトイレ・風呂など共有の場所はアルコール・ハイター消毒。台所関係の消毒、整備。開所時に、施設マニュアルで学習し、参考にできるように保存している。	○ 日々の情報の収集に努め、共有して施設内整備・感染予防に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台 所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全 な食材の使用と管理に努めている	まな板や調理用具・布巾などの消毒・整備。食材 は週3回購入し、賞味期限チェックしている。刺 身を出す時もあるが、時期によりなるべく加熱料 理を行っている。	○	食中毒を起こさないように掃除・整理整 頓消毒を怠らない。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみや すく、安心して出入りができるように、玄関や 建物周囲の工夫をしている	玄関回りには観葉植物や季節の花を置いたりし て、入居者様や訪問者に心地よい印象になるよう に努めている。玄関は引き戸にして見通し良く、 解放感があるようにしてある。	○	花壇を少しずつ広げ、一年中の花が自然 に目に入るようにしたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食 堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快 な音や光がないように配慮し、生活感や季節感 を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫 をしている	自然採光が工夫されている。自然や庭など、外が 見やすい間取りになっている。トイレは暗すぎ ず、明るすぎず。玄関から居室に至るまで移動し 易く手摺を設置してある。	○	季節感を取り入れ、居心地の良い場所と 感じて頂けるような工夫をしていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の 合った利用者同士で思い思いに過ごせるような 居場所の工夫をしている	ソファに座って談話や歌を楽しんだり。心和む 歌、合言葉、馴染みやすい教訓などの張り紙をし ている。輪の中に入れない時は、介護者と過ごし たり横になったりできる畳間がある。	○	安心できる居場所作りを職員の知恵を出 し合って工夫していきたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と 相談しながら、使い慣れたものや好みのものを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	各居室には馴染みのあるラジオ・写真・愛用の楽 器など置いているが、全員とは限らない。少ない 方にはカレンダーや張り絵・写真など職員が配慮 している。	○	殺風景にならないように、又華美になら ないように、ご家族とも相談しながら調 整していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上のよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がな いよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに 行っている	外気との温度差が少なく済むように窓を開け、 換気している。各個室にも空調設備がなされてあ り、時期によって利用調整している。体感温度に 差があり、寝具や衣類などの調整も行っている。	○	恵まれた環境を活かしていく。今後は不 快な要因を将来しないように配慮する。 不快な臭いや音は回避できるように工夫 していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	各所に手摺の設置がなされている。押し車、歩行 器、4点杖など必要な利用者様に活用している。	○ 風呂場到手摺を設置する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	トイレや各部屋に名前の表示をしている。理解し にくい方には、解り易い言葉で表示したり、困乱 されている時は傍に付き添い、一語々柔らかに解 りやすい言葉で話しかけている。	○ 個々の利用者様のニーズの変化を捉える 力を職員が培い、援助できるように介護 技術を向上させ、学び合う。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	花の種まき、植え付け。生花を生ける。日々の水 やり、玄関の掃除など。畑の準備、洗濯干し。テ ラスを利用し、お茶タイムを過ごしたり、外気浴 を楽しんでいただいている。	○ 春夏秋冬の季節に応じた楽しみを工夫す る。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目			回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②

項 目			回答
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	②
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム「希望の家」は、平成20年4月地域密着型サービスの施設として開所しました。国道3号線と交わる国道447号線の道路沿いに、母体となる東医院があり、そこに隣設されました。道路の延長線上には市役所・郵便局があります。施設の1Km内外にホームセンター・薬局・飲食店・マーケットなどが立ち並び、暮らしやすい所です。ホームは道路より少し奥まった所がありますが、居室からは新幹線や田園風景・人々の活動の姿を眺められ、孤立感のない環境です。自然や人々に親しみやすく、四季を通じていかに利用者様と職員が、共に和やかに過ごしていくか？行事計画は嬉しい課題の一つです。病院が、近くにあるため、日々の健康管理の相談もしやすく介護者にとっては心強く安心して働けます。デイサービスを併設しており、介護や行事への協力が得られることも利点の一つです。栄養士や調理員の意見も参考にしたり、旬を取り入れて利用者様に喜んで頂ける食事作りは、介護者の腕の見せ所です。開所から1年が過ぎ、介護者も様々な困難な事例を体験しながら、学習を重ね少しずつ自信とゆとりがついて来たようです。利用者様と喜怒哀楽を共にした生活支援を通して、これからも利用者様やご家族から学び・実行・反省・気づきで認知症ケアの専門職として成長していきたいと思っております。